

あとがき

GRANTHA第3号をお届けいたします。2号から1年経てようやくの発刊です。今回は「グリーフケア」「スピリチュアルケア」を特集しました。これらの言葉や「臨床宗教師」「臨床仏教師」という名称を最近目にしたり、耳にする事が多くなった感がある一方、内容については深くは知らない、という方もあるでしょう。しかし今後はさらに宗教者の耳目を集めることになろうかと思えます。

人の話をよく聞く、それも深い悲しみの中にある人の話を聞く、聞ききる、これは「傾聴」と呼ばれ、東日本大震災以来、被災者と接する宗門教師の活動報告で目にする事が多くなった言葉でありました。臨床宗教師も震災以後にクローズアップされてきた言葉ですが、いわゆる「傾聴」する行為と同じなのか、違うのか、以前から行われてきた「ビハーラ」との関係はどうなのか、資格を得るにはどこで学ばよいか。これら様々な小さな疑問もこのGRANTHAをお読みになれば明らかにできると思えます。また「グリーフケア」「スピリチュアルケア」の意味を正しく理解することができると思えますし、また「寄り添う」という言葉の持つ、真の意味、重さを知ることができます。様々な「グリーフ（悲嘆）」に相対する時、それまでのスキルや経験も勿論大切ですが、それぞれの現場において、宗教者として自らの生き方を問い直さねばならないかもしれず、かたや自らが抱える苦悩や絶望に直面するかもしれません。グリーフケアは、そこに在る一つの悲嘆に向き合い、寄り添うことにより、実のところ、宗教者としての自己の存在意義に係わる重い問いを投げかけてきます。何故かといえば、他者のグリーフは、結局自分自身のグリーフに直結しているからであると思うのです。

現代宗教研究所では今後もグリーフケアに関する研究や研修を継続していく予定です。また「臨床宗教師」「臨床仏教師」を志す日蓮宗教師を応援していますので、興味・関心のある方は現代宗教研究所までご連絡下さい。

今後も現代の日蓮宗教師に関心の高いテーマに関する研究や報告をお届けしていきたいと考えています。

日蓮宗現代宗教研究所